

二〇八三番

秋風あきかぜの 吹ふきにし日ひより 天あまの川がは 瀬せに出いで立たち
て 待まつと告つげこそ

二〇八四番

天あまの川がは 去こぞの渡わたり瀬せ 荒あれにけり 君きみが来きまさ
む 道みちの知しらなく

二〇八五番

天あまの川がは 瀬せ々に白しら波なみ 高たかけども 直ただ渡わたり来きぬ 待ま
たば苦くるしみ